

東彼杵のひと

vol.11

よしこ
岡田 淑子さん

1951(昭和26)年生まれ
佐世保市出身 東彼杵町在住
珈琲・軽食「香門」店主(今年3月に閉店)



今年3月、惜しまれながら35年の歴史に幕を閉じた、千綿宿郷の喫茶店「珈琲・軽食 香門(かもん)」。1989(平成元)年4月のオープン以来、数多くのお客さんにほっとする時間と空間を提供してきた、店主の岡田淑子さんにお話しを伺いました。

オープンのきっかけ

佐世保の病院で事務職員として働いた後、東彼杵の製茶問屋 岡田商会の3代目 岡田金助さんと結婚。3人の子どもの生まれ家事と育児に専念していた頃、岡田商会で新たにお客さんのための休憩スペースを作ろうという計画が持ち上がったそうです。

「当時は今より団体旅行が盛んで、嬉野温泉の帰りに貸切バスで立ち寄ってくださるお客さんが多く、化粧室の整備が必要な状況でした。せっかく工事をするのなら、ゆっくりお茶屋のお茶を飲んでもらえるようなお店を作ろうということで、私がお店を任されることになったんです」

ポケットベルとコーヒー

「その頃はポケベルが主流の時代で、もともと敷地内にあった公衆電話には順番待ちの列ができて、木陰に車を

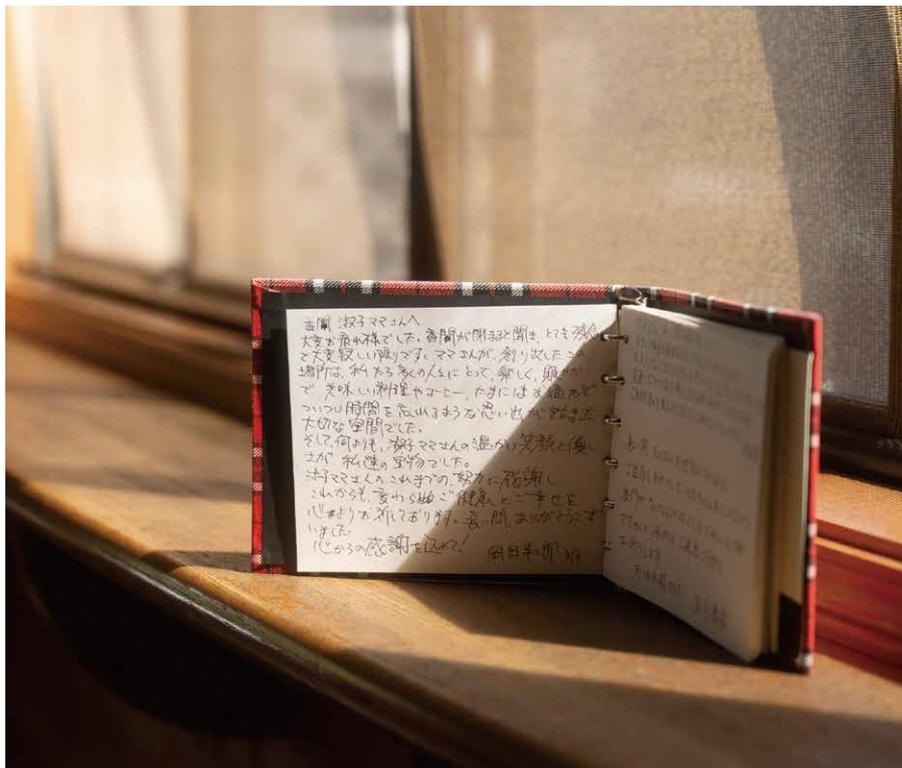
停めて返信を待つ人がいたり、自然と人が集まる場所になっていました。そんな皆さんの待ち時間に、お茶だけでなくコーヒーを提供できたらというアイデアから、喫茶店のオープンが決まったんです。当時コーヒーといえば缶コーヒーやカップ式自販機が一般的だったので、サイフォンやドリップでいれる本格コーヒーは、ポケベル待ちの営業マンを中心にお客さんに大変喜ばれました」



香門の名物だった桜。小さな苗木だった木が、今では店を覆うくらい大きくなりました。

出会いと挑戦の日々

喫茶メニューから始め、要望に応えながらカレーやピザ、ランチタイムの定食を出した時期もあったそうです。夜にはアルコールを提供し、地域住民の憩いの場として愛されました。「飲食業の経験がなく当初は不安もありましたが、



新たなお客さんと出会い、小さな挑戦を重ね、充実した日々を過ごせました。『お店なのに家に帰ってきたような安心感がある』とありがたい言葉をくださったのは、長年利用していただいた地元・東彼杵町消防団第3分団の皆さん。とても勇気づけられたのを昨日のこのように思い出します」



家族と桜の木の前で記念撮影。いろんな思い出がよみがえります。

家族への感謝の気持ち

「3人の子育てをしながら35年もの間お店を続けられたのは、香門に足を運んでくださったお客さんをはじめ共に頑張ったスタッフ、岡田商会の仲間のおかげです。そして何より家族の理解と支えがあったからこそ。感謝してもしきれません。子どもたちが幼稚園や小学校低学年の頃から店に立っていたので、寂しい思いをさせることもたびたびあ

りました。その子たちも今では親になり、子育てに仕事にと頼もしい姿を見せてくれています」

これからのこと

「建物や設備の老朽化をきっかけに閉店を決めました。名残惜しい気持ちはありますが、町内には若い人が経営するすてきなお店が増え、安心して世代交代の時期を迎えられました。常連さんを中心にいただいた直筆のメッセージ集は、私の大切な宝物です。今後は次世代の活動を応援しながら、これまではなかなかできなかったお茶屋の手伝いやボランティア、家族と過ごす時間などを大切に、これからの人生をますます満喫してみたいと思います」

取材とぼれ話

「最後はこれで締めくりたい」と閉店前にたくさん注文の入った人気メニューが『焼酎の緑茶割り』。岡田商会の茶葉のうまみとさわやかな香りが贅沢に楽しめる一杯でした。

